

養成講座ストーリー第3弾 「全6回で何を学ぶのか！」

～不登校支援に必要な「知識」と「実践力」を6回で学ぶ～

不登校の子どもへの支援は、「学校に行けるようにする」ことだけが目的ではありません。

子どもがなぜ学校に行けなくなっているのか。その背景には何があるのか。家族はどのような思いを抱えているのか。そして、支援者はどのような関わり方をすればよいのか。

これまでのWAM助成事業を通じた訪問支援の中でも、子ども本人だけでなく、家族への支援や学校・医療・福祉などとの連携の重要性が見えてきました。

今回の養成講座では、こうした現場で求められる視点を、全6回にわたって学びます。

第1回 「不登校現象」を理解する

～子どもたちに今、何が起きているのかを多面的に理解する～

「なぜ学校に行かないのだろう？」という疑問だけでは、不登校を十分に理解することはできません。

不登校には、学校生活でのつまずき、人間関係、家庭環境、発達特性、心身の状態など、さまざまな要因が複雑に関係しています。また、一人ひとりによってその背景も、困りごと也不同じます。

だからこそ支援者には、「学校に行けない」という表面的な現象だけを見るのではなく、その子どもの置かれている状況を多面的に捉える視点が必要です。第1回では、不登校を取り巻く現状や背景を理解し、「なぜこの子は今、こういう状態なのだろう」と考えるための基礎を学びます。

子どもを「学校に行かない子」として見るのではなく、「今、何に困っているのか」という視点から理解する。

ここから、不登校支援の第一歩が始まります。

第2回 不登校児への支援に必要な基礎知識を学ぶ

～信頼関係づくりから始まる訪問支援の基本を学ぶ～

不登校の子どもの中には、学校だけでなく、大人や支援者と関わることそのものに不安を感じている子どももいます。

そのような子どもの家庭を訪問したとき、「何を聞けばいいのか」「どのように声をかければいいのか」と迷うことも少なくありません。

訪問支援で最も大切なのは、最初から問題を解決しようとするのではなく、「この人なら話してもいい」と思ってもらえる関係を少しずつつくることです。

第2回では、不登校支援に必要な基礎知識を学びながら、初回訪問での関わり方、子どもとの距離の取り方、安心できる環境づくりなど、訪問支援の基本的な考え方を学びます。

「支援する」前に「関係をつくる」。

訪問看護師だからこそできる、家庭に入り、子どもと家族の安心を支える支援について考えます。

第3回 家族支援の意味と具体的な支援方法を学ぶ

～子どもの変化を支える家族へのアプローチを学ぶ～

不登校支援では、子どもへの関わりだけでは十分ではありません。

毎日子どもと向き合っている保護者も、「どうすればいいのか分からない」「このままで大丈夫なのか」と悩み、孤立していることがあります。

保護者が自分を責めたり、子どもへの対応に悩み続けたりすると、家庭全体が苦しさを抱えてしまうこともあります。

だからこそ、子どもを変えようとするのではなく、まず家族の思いを受け止め、一緒に考える支援が大切になります。

第3回では、家族が不登校をどのように受け止めていくのかを理解し、保護者への声かけや面談など、具体的な家族支援の方法について学びます。

子どもの変化を支えるためには、子どもを取り巻く家族への支援も欠かせません。

「子どもへの支援」と「家族への支援」を一体的に考える視点を身につけます。

第4回 不登校児への早期支援の必要性を理解する

～長期化・重症化を防ぐためのアウトリーチ支援を考える～

不登校が長期化すると、子ども自身の自信を失ったり、人とのつながりが減ったり、生活リズムが崩れたりするなど、さまざまな困難につながる場合があります。

しかし、支援を必要としている家庭ほど、自ら相談窓口へ足を運ぶことが難しい場合があります。

だからこそ、支援を「待つ」のではなく、必要な人のところへ支援者が出向いていくアウトリーチの考え方が重要になります。

これまでのWAM助成事業でも、訪問看護師が家庭を訪問し、まず安心できる関係をつくることから支援が始まるケースがありました。

第4回では、なぜ早期支援が必要なのかを理解するとともに、家庭に出向いて支援するアウトリーチの意味や可能性について学びます。

「相談に来てもらう」のではなく、「こちらからつながりに行く」。

訪問看護だからこそできる早期支援について、一緒に考えます。

第5回 多機関連携と社会資源の活用方法を学ぶ

～学校・医療・福祉・地域がつながる支援ネットワークを構築する～

不登校の支援を、一つの機関だけで完結させることは簡単ではありません。子どもの生活を支える家庭、学校での状況を把握する学校関係者、心身の状態を支える医療、生活や社会参加を支える福祉、そして地域のさまざまな支援機関。

それぞれが持っている情報や専門性をつなぐことで、一人の子どもと家族を多方面から支えることができます。

一方で、「どこに相談すればよいのか」「誰とどのようにつながればよいのか」が分からないことも、支援を難しくする要因になります。

第5回では、学校・医療・福祉・地域にある社会資源を知り、それぞれの役割を理解しながら、多機関が連携して支援する方法を学びます。

一人で抱え込む支援から、地域で支える支援へ。

支援者同士をつなぐ力も、訪問看護師に求められる大切な支援力です。

第6回 訪問看護による支援を振り返り、実践につなげる

～実践を振り返り、支援力を高めるための学びを共有する～

支援は、「やって終わり」ではありません。

実際に子どもや家族と関わった後、「あのときの声かけはどうだったのか」「もっと違う関わり方ができたのではないか」と振り返ることで、次の支援につながる新しい気づきが生まれます。

不登校支援には、一つの正解があるわけではありません。一人ひとりの子ども、家族、家庭環境によって、必要な支援は異なります。

だからこそ、実践を振り返り、支援者同士で経験や悩み、気づきを共有することが大切です。

第6回では、これまで学んできた内容を実際の支援につなげるために、訪問看護による支援を振り返り、事例や実践から学びを深めます。

「学んで終わる」のではなく、「明日からの支援に活かす」。

6回の学びを、それぞれの地域での実践につなげていくことが、この養成講座の大きな目的です。

「理解する」→「関わる」→「家族を支える」→「早期につながる」→「地域で支える」→「実践につなげる」

この流れを通して、不登校の子どもと家族に寄り添う訪問看護師としての支援力を高めていきます。

「不登校支援を学びたい」という思いを、

「実際の支援に活かせる力」へ。

それが、全6回の養成講座です。

1 「不登校現象」を理解する ～子どもたちに今、何が起きているのかを 多面的に理解する～

- 不登校の現状や背景を知る
- 多様な要因を理解する
- 子どもの立場に立って
捉える視点を持つ



2 不登校児への支援に必要な 基礎知識を学ぶ ～信頼関係づくりから始まる 訪問支援の基本を学ぶ～

- 訪問支援の基本的な考え方を学ぶ
- 信頼関係をつくるための関わり方を身につける
- 安心できる環境づくりと
適切な距離感を学ぶ



3 家族支援の意味と 具体的な支援方法を学ぶ ～子どもの変化を支える 家族へのアプローチを学ぶ～

- 家族の心理や困りごとを理解する
- 保護者への効果的な関わり方を学ぶ
- 子どもと家族を一体的に支える視点を持つ



4 不登校児への早期支援の 必要性を理解する ～長期化・重症化を防ぐための アウトリーチ支援を考える～

- 長期化・重症化のリスクを理解する
- アウトリーチ支援の意義と方法を学ぶ
- 早期につながるための視点と行動を考える



5 多機関連携と 社会資源の活用方法を学ぶ ～学校・医療・福祉・地域がつながる 支援ネットワークを構築する～

- 各機関の役割と強みを理解する
- 社会資源を把握し、活用する方法を学ぶ
- 多機関がつながる支援の流れをつくる



6 訪問看護による支援を 振り返り、実践につなげる ～実践を振り返り、支援力を高めるための 学びを共有する～

- 実践を振り返り、良かった点や課題を整理する
- 他の受講者と経験や気づきを共有する
- 明日からの支援に活かせる学びにつなげる



6回の学びを、実践する力へ！

不登校の子どもと家族に寄り添う訪問看護師として、
地域で支える力を一緒に育てていきましょう。

